

JICA 英国事務所

英国援助情報ヘッドライン

23 May 2005

Vol. 1

今回のメインピック： アフリカ委員会報告書



From: 英国事務所長

< 演説等 >

■ ストロー外相：ジンバブエの選挙について（4月4日）

3月31日に実施されたジンバブエの選挙ではジンバブエ国民の自由かつ民主的な意思が反映されたとは思えない。国民のよりよい生活への願望が妨げられていることはアフリカ委員会も指摘している。ジンバブエがその例であり、さらに残念なことは周辺国が選挙結果を公認したことである。EUはジンバブエに対してアフリカ諸国では最も厳しい制裁を与えている。英国は人道援助として2001年から7100万ポンドの食糧援助とNGOが実施するエイズ対策に2650万ポンドを拠出した。

■ ランメル外務政務次官：国連代表部にて（3月22日）

アナン事務総長が最近発表した「In Larger Freedom」という報告書についてミレニアムサミットとの関連で以下のコメントを行った。

MDGの達成のためにはODAの資金を大幅に増やす必要がある。事務総長が提案する債務や最貧国の農産品の関税撤廃は困難な課題であるが、英国は多国間貿易の実現に向けて取り組む。さらに事務総長がアイデアとして掲げているサブサハラ緑の革命、貧困者のための研究開発、自然災害への対応、WHO規則の改定について先進国、途上国ともに真剣に取り組むべきである。

テロへの対策は西側世界だけのものではない。最近ではテロの犠牲者は途上国のほうが多い。平和構築に関する委員会の設置は非常に重要である。これまで軍やPKOの成果はあったが、メディアの注目がなくなった後の紛争後の平和構築には関心が薄れてしまう。そのような機会に平和構築に関する委員会が必要となる。

事務総長はハイレベルパネルのガイドラインに基づく権力の使用についても触れているが、人間の保護に関する条約の批准と共に歓迎したい。人権の高等弁務官が安保理においてより大きい役割を果たすことについては広い支持が得られると思う。

組織改革に関しては、事務局の透明性、アカウントビリティ、効率性が重要であり、ミレニアムサミットでの成果を期待する。安保理改革は重要であるが、意見が分かれるであろう。それによってサミット全体が影響を受けるのは好ましくないため、サミット前に安保理に関して判断を下すという事務総長の提案に賛成したい。

■ ベン開発大臣：王立地理協会での世界水の日講演（3月22日）

アフリカを訪問し、貧困層からの切実な願いは水であると認識している。安全な水が確保できないと疾病の原因になり、妊婦への負担も増す。妊婦がエイズ患者の場合は乳児には粉ミルクを与える必要があるが、水が汚染されていると下痢により命を落とす。女子生徒は水を探したり運搬したりするために就学ができない。MDG達成のためには毎日ルクセンブルグの人口と同じ数の人々に安全な水を供給し、それを10年間に亘って継続することである。達成できていない原因は、（1）資金不足であり、特に1999年から2002年に世界の水に関する援助額が14%減少し、多くのドナーが社会セクターやPRSPにシフトした。さらに、最大のドナーである日本の資金が2/3に削減された。（2）アフリカ向けに進出し、撤退した民間企業が多く、地元の民間セクターには

キャパシティーがない。(3)給水とは本来は地元が計画し、運営するものであるが、地元社会にはそのような機会が与えられず、要求もしていない。

DfID も他のドナーと同じく、貧困者の水に対する要求に十分に答えていない。このため、今後3年間で水セクターの予算を4750万ポンドから9500万ポンドに増額する。特にMDGの達成度が低いDRC、エチオピア、ナイジェリア、スーダンでは政府のキャパビルも行う。EUや世銀とも協力していく。

■ ベン開発大臣：アフリカ委員会報告書に関する議会演説（3月14日）

報告書では汚職、紛争、ドナーの約束反故の現状が明らかにされると同時に民主化が進み、紛争が減ったなどの良い兆候も記されている。アフリカがAUやNEPADなど自分たちで対応を始めたことも明るい材料である。さらに、アドホックな対応ではなく、総合的な対応が必要としており、IFFや最貧国の政務の完全削減は即刻実施すべきである。先進国による輸出補助金を撤廃し、アフリカには貿易能力をつけなくてはならない。インフラ投資も必要で、報告書は年間100億ドルのインフラ基金、投資環境改善、農業の振興を挙げている。さらに、AUの平和と安全保障に対する支援と報告書で提言されている事項の進捗モニタリングも提案している。

英国は国連が提唱しているODAの対GNP0.7%を達成見込みであり、IFFと債務削減でも舵取り役になっている。また、2010年には援助を倍増させることにしている。ブレア首相はG8サミットでこの報告書の提言内容を示すことにしており、何をすべきかが明らかになる。我々は判断しなくてはならない。

■ ストロー外相：外務省の持続的な開発戦略（3月14日）

英国はEU議長とG8議長の立場を利用してアフリカ開発と気候変動を持続的な開発の重要な要素と位置づけている。欧州では今年から排出権取引が開始される。外務省では資源の再利用に努め、電力も来月からは復元可能な資源から得ることにしている。また、2006年4月からは職員が出張時に利用した航空機が排出する二酸化炭素を還元するための植林などに資金を投入する。

■ ブラウン蔵相：アフリカ委員会報告書発表について（3月11日）

アフリカ委員会報告書にて提案されているパートナーシップの要旨は債務削減、公正な貿易、新たな投資である。報告書には過去の債務を削減しない限り公平はない、先進国へは農業の保護や不公平な原産地ルール、貿易協定への対応を呼びかけ、貿易のためのインフラ（運輸、水、電力、情報通信）と技術や職業訓練の必要性が記されている。アフリカ委員会とG8はこの報告書だけではなく、イースターに行われるIMF・世銀会合、G8サミット、国連サミット、香港WTO会合にてその姿勢が問われるであろう。我々には逃れることも、先延ばしも、謝罪もできないのである。

■ ブレア首相：アフリカ委員会報告書発表について（3月11日）

アフリカの数百万人の国民に対して謝罪も弁明も必要ではなく、変えることのみである。アフリカは良い方向へ変えることができ、報告書にはその方法が書いてある。要はアフリカと富める国々

がその意志を持っているかである。不安定性、紛争、絶望から救うのは長期的な平和と繁栄である。40年前のアジアはアフリカよりも貧しかったが、今は最も発展の早い地域になっている。つまり、希望は残されている。報告書は最初の一步であり、毎年のモニタリングが想定されている。私は世界のリーダー達に G8 サミット、国連サミット、香港 WTO 会合の場を通じて報告書に対して行動を起こし、世界の人達の声を聞くように伝える。もし我々が行動を起こさなかったら、アフリカの子供達だけでなく、我々の子供達を裏切ることにもなる。

■ ベン開発大臣：科学技術を貧困者へ（3月9日）

科学技術は開発と貧困削減に有効である。英国は中央研究所の予算を昨年の 8600 万ポンドから 3 年間で 1.36 億ポンドへ増額する。重点分野は持続的農業（特にアフリカ）、疾病、気候変動、貧困者のための国家のあり方である。

<プレスリリース>

- ・ IPPF に対する英国の拠出額は今後 2 年間で 25% 増加して 1500 万ポンドとなる。資金は家族計画やリプロに使われる。（4月1日）
- ・ DfID は今後 3 年間の結核対策（StopTB）のために 3 年間で 500 万ポンドを拠出する。（3月24日）
- ・ 英国は水・衛生分野の援助を倍増させ、2007/08 年には 9700 万ポンドとする。対象国はガーナ、マラウィ、モザンビーク、ルワンダ、タンザニア、ウガンダ、ザンビア、DRC、エチオピア、ナイジェリア、スーダン。（3月22日）
- ・ 英国はネパールの政変に関連して首相府、警察、刑務所への支援を撤回し、予定していた支援額 2400 ポンドの中で未執行の 1300 万ポンドを引き上げた。（3月17日）
- ・ 工業の透明化に関する国際会議がロンドンで開催され、石油、ガス、鉱業分野で収入と支出の透明化、独立した監査、市民社会との連携を進めることを確認した。パイロット国としてはアゼルバイジャン、ガーナ、キルギス、ナイジェリアを選定。（3月17日）
- ・ セントヘレナの国際空港建設に DfID は資金を提供する。英国はすでに公共セクターと連絡船の補助金として年間総額 1300 万ポンドを拠出している。（3月14日）
- ・ DfID はコンディショナリティーの見直しを行う政策書を作成し、相手国の政策、民営化、貿易の自由化に対してコンディショナリティーを課すのではなく、貧困削減、教育、保健医療に関して目標値を設定する。さらに政策書は相手国のオーナーシップ、援助の予測性、アカウンタビリティー、調和化を掲げている。（3月2日）
- ・ 英国のパキスタン向けの新たな援助パッケージが発表され、3 年間で 2.36 億ポンドを拠出する。主な内容は教育、保健医療、貧困者の収入向上、政府のアカウンタビリティーの向上である。（3月1日）

<ニュース>

- ・ DfID がプログラム管理、経理、人材管理、安全管理、IT などに関する組織ルールを **Blue Book** として公表した。将来はベストプラクティスも盛り込む。(4月27日)
- ・ 新たな地雷除去器を開発。DfID も研究開発に資金供与。(4月5日)
- ・ DfID がジャマイカの債務を 2005 年は 600 万ポンド削減。1998 年から 2004 年までの累計削減額は 3920 万ポンド。(4月5日)
- ・ DfID が UNFPA に対する 2007/08 年までの戦略を発表。(4月1日)
- ・ G8 の環境と開発担当大臣会合が Derbyshire で開催された。環境変化はアフリカに深刻な影響をもたらすことを確認し、英国は環境変動に対して予測やネットワーク作りのために 50 万ポンドを拠出。乱伐に対しては供給と需要の両面から対策を講じる。(3月21日)
- ・ DfID はパレスチナに対して世銀の基金へ 1000 万ポンドを拠出した。今年度のパレスチナ支援額の合計は 6100 万ポンドとなる。これはその直前にロンドンにて開かれたパレスチナ支援会合にタイミングを合わせたもの。(3月3日)

以 上